

山守り次代につなぐ

住宅の営業経験生かす

吉本(長野)・由井正宏氏



「山をしっかりと造る」と同時に、社員のバックアップも重要。この

く、次の仕事につながることも多かったです。林業も一緒にだとう。木を少しでも高く売って、所有する。しっかりと林業現場や製材工場に働く社員が30人。林業の新規採用で苦労しているもの、社員の定着率は高く、社員の伸展の原動力になっている。

吉本(長野県南佐久郡、由井正隆社長)は自社林6000畝のほか、国有林・民有林の森林整備を請け負う長野県を代表する林業事業体の一つ。由井正宏専務(41)は社業に就いて11年。経営計画や団地化に伴う林家との調整・交渉を行う営業を担当しており、山を造る、国土を守るといった公益的観点からも林業にやりがいを感じている。

社業に就く前、住宅会社の営業に10年間勤

務した。その時の経験が今の仕事にも生かされている。住宅はクレーム産業で、問題が発生した場合は勤務時間外、休日であろうと関係なく対応した。大変だったが、その分顧客が満足し喜んでもらえる仕事ができるとして、自分たちだけが良い思いをするのは簡単だが、そういう林業はやりたくない。次世代が仕事ができるように、林業が継続できるように倫理観をもって仕事をやっていきたい。地域にはそれぞれの思いが渦巻いている。クレームなく、全員が満足するようにもっていくのが大変だが、やりがいがある」と話す。

社員数は40人。このうち林業現場や製材工場に働く社員が30人。林業の新規採用で苦労しているもの、社員の定着率は高く、社員の伸展の原動力になっている。

「山をしっかりと造ると同時に、社員のバックアップも重要。この会社が働いて良かったと思えるようにしていきたい」。

同社のある東信地域のカラ松は合板、集成材ラミナ等で人気が高く、得意とする杭丸太の需要も高まっている。この地域のカラ松は通直で強度が高く元口と末口の差が小さいため杭丸太には最適だ。近年は1000、5000本単位の大口需要が増えており、地域と連携して産地化形成を図っている。

由井専務は林業の情報発信にも積極的に取り組んでいる。「山を守るこの大切さ、林業の楽しさ、やりがいをたくさんの人に知ってもらいたい」と話している。